



2学期がスタートしましたが、みなさん元気にお過ごしでしょうか。今回は、夏休みに行った研修会の報告をさせていただきます。今後の指導の参考にさせていただければと思います。子どもの学びを保障するために、日々研鑽し、実践していきましょう。

子どもの育ちをつなぐ研修会



7月30日（金）南丹市園部文化会館（アスエルそのべ）を会場に、一部の方はzoomで参加していただき、管内の保育所（園）・こども園・幼稚園・小学校の教員をはじめ、管外の幼稚園教員や行政担当者など107名で、子どもの育ちをつなぐ研修会を開催しました。

講演

「学びの連続性を踏まえた保幼小連携の在り方」

★保幼小の連携について先生の「連携を目的とするのではなく、目の前の子どもを育てることを目的としていく」という最後の言葉がとても印象的でした。今後どのように小学校と繋がっていくことが大事なのかみんなで考えるきっかけにしたい。（保育所）

岐阜聖徳学園大学 教育学部
にしかわ まさあき
西川 正晃 教授



★保幼小連携の大切さを改めて認識しました。特に「遊び」を通した学びに、どのような目的を持って取り組まれているかを十分理解した上で、学習目標・計画を立て学びにつなげていくことが、入学までに培ってきた力をさらに伸ばしていくことだと感じました。小学校までの子ども達の学びを知ることは、1年担任だけでなく他の学年においても必要で、こういった研修会に様々な学年の教員が参加することがとても大切だと感じました。（小学校）

★幼稚園、保育所、小学校の先生がそれぞれどんな保育、授業をしているか知ることが大事であると分かった。特に幼児期の学びは「見えない教育」だと言われているからこそ、小学校への連携が難しいのだと思った。幼児期の学びは、言葉や文字では伝わらないことが多いので、研修などの形で保育の様子を見てもらったり、小学校の授業の様子を見て、幼児期の学びとの連続性を知ったりすることが大切であると思った。（幼稚園）

★学びに向かう力は幼児期にすでに育まれるという言葉に、改めて幼児教育の重要性を感じた。自分から興味を持って（=心が動き）、体験を重ねていく（=繰り返す）遊びが広がっていくようにしていきたい。また、幼児期の学びを発信し共有していくことが課題になってくると思うが、互いに歩み寄りながら、同じ視点で子ども達の育ちを考えていく場がもっとできれば、円滑な保幼小連携につながると思った。（こども園）

グループ交流・協議

- ① 接続にかかわる取組の交流
- ② 大切にしたい接続の視点



★幼稚園の先生が「子どもたちに聞いてやって！」「子どもたちはすごいから」と言われた。1年生=0スタートではなく、保幼の積み上げの上にあるということにとても納得した。考えようとする子ども達の成長を支援したい。（小学校）

★保育所ではできる配慮や関わりが、小学校では難しい実情があると思いました。だからこそ、連携の中で具体的な事例での園の対応を伝えることが大切だと感じました。園で大切にしてきた姿を知ってもらうことで子どもの見え方も違います。伝え方を改めて見直す機会となりました。（保育所）

★小学校の先生方と話をする機会が持て、伝えたい思いが話せたり、聞かせてもらえたりして嬉しかったです。交流活動を通して、子ども同士が繋がったり、小学校を知る機会が持てたりそういった工夫が今後も必要であると感じました。今後も就学前教育を知ってもらう機会を大切にしていきたいと思っています。（幼稚園）

◇ 次回は、3学期に「保幼小連携推進研修会」を予定しております。多数ご参加ください！